石かわ

第109号
発行者
退職校長会石川支部
冨岡高春

新支部長あいさつ

冨岡高春

四月退職校長会支部総会が半数の会員の出席のもと四年ぶりに開催されました。その席上で支部長に選任され責任の重大さを痛感しております。

先輩方の業績等に習い、本会発展のために全力を尽くして参りたいと思います。

さて、この三年間、コロナ禍は、退職校長会の組織活動にも大きな影響を及ぼし、総会やクラブ活動、ボランティア活動、旅行等すべて中止となり非常に残念でありました。

少子高齢化、組織の脆弱化がいわれる中、更にコロナ禍で交流や親睦等、人間関係の希薄化が進んでしまった感じです。また、組織に加入しなくてもという風潮が一部見られたことは寂しい限りです。

しかし、支部活動に様々制限はありましたが、役員会を実施し、このような状況下での会の在り方を模索し、さらには広報部委員会のご努力により支部会報発行ができたことは会員同士のつながりを確認できたものと感謝しています。新年度になり、クラブ活動も始まり、六月には、退公連との共催のボランティア活動を四年ぶり、そして今までにない約三十名の参加で「ふるどの荘」で実施。健康で地域や社会のために協力しあえることは大きな喜びであり、生きがいです。「地域貢献活動」は県本部でも推奨しています。

人と人をつなぐには組織力を維持し活動を前進させることです。新型コロナに落ち着きが見られるようになった今、行事や事業を復活させ、情報交換や会話の場を増やし、会に所属していてよかったと思えるようにしたいと考えます。

石川支部は小規模な組織だからこそ会員一人一人の力を結集し、情報発信を強力にし支え合うことで親密な豊かな会になることを信じています。

皆様の温かいご協力を宜しくお願いいたします。

令和五年度 役員一覧

顧問　奥貫　四郎
西牧　庸一
冨岡　高春

支部長　大樂　宣和

副支部長　田口　和憲

評議員　冨岡　高春
矢吹　伸一

監事　田中　孝平

理事　田子　育良
蛭田　重経
矢吹富美子
水野　岩雄
小針　良仁
舘　初浩

幹事

〈事務局長〉矢吹　伸一
〈庶務〉相樂　正弘
〈会計〉塩田　明美
芳賀　徹
西牧　敏幸
小針　良仁
冨岡　信
三森　朗
渡邊　宏文
渡邉　良一
結城　久直
有賀　真道

方部幹事

履歴書・功績調書預託委員会
〈委員長〉田口　和憲
〈委　員〉大樂　宣和
矢吹　伸一

会報編集委員会
〈委員長〉内田　賢壽
〈委　員〉渡辺　敏幸
渡邉　良一
舘　初浩

旅行委員会
〈委員長〉蛭田　重経
〈委　員〉玉山　肇男
川崎　真裕
矢吹富美子
遠藤　浩

クラブ活動・世話人
★文化財　蛭田　重経
渡邉　良一
★ゴルフ　鈴木　文雄
舘　初浩
川崎　真裕
★園芸・野草　西牧　敏幸
★書道絵画　吉田　相康

祝 喜寿

矢吹一彦

四年ぶりで開かれた過日の支部総会で喜寿のお祝いをしていただきました。本当にありがとうございました。

父親が七十三歳で亡くなっている私にとって、喜寿を迎えることが一つの目標でした。それだけに大勢の仲間の前でお祝いの言葉と記念品をいただけたことをとてもうれしく思いました。

とは言っても老後が十年二十年長くなっている今日、七十七歳は一通過点に過ぎないのかもしれません。

健康な日常生活を送るための新たな人生設計を立てる必要がありそうです。

幸い私は健康に恵まれています。退職してから今日まで、シルバー野球を楽しみ、趣味の筋トレを楽しむことができました。老いを迎え入れつつ、栄養のバランスのとれた食事と適度な運動を常に心がけ、これからも健康な日々を過ごしていきたいと思っています。

祝　金婚

高原榮征

「如何に生きるべきか」

戦争中に生を受け、小学、中学、高校そして福島大学と貧しい生活を続け念願の教師に。八年後に結婚、それから五十年、金婚とは・・・夫婦とも自分自身を省みることすらできず、仕事、子育て、家庭（家族）を全うしようと努めてきた。子ども達が自立したころには親の面倒を見ることに、それが済むと、互いは高齢者に。八十歳の今の姿を中堅のころは想像もできなかった。後期高齢者というレッテルを貼られたころから急速に眼、歯、耳、脳の衰えを自覚すると共に、体のあちこちに異変が出始める。さて、これからどう生きるか。**「人は他人の役に立ってこそ生きる価値がある」**という信念。様々な行為はあろう。他人を喜ばせたり、力を貸したり、お手伝いをしたり、何かを代わってあげたり等である。同時にそれは、自分自身の健康保持も意味している。私の場合は、惚けず、他人の役に立つ、ことを両立させたい。その意味で現在続けている好きなハーモニカ活動等も生涯続けようと決意している。会からの『賀詞』ありがとうございました。本会の充実発展を心から念じています。

哀悼

有賀窕先生を偲んで

南條正喜

昭和六十一年四月、新任教頭として竹貫田小学校に着任しました。校長先生は、有賀窕先生でした。先生は、私が中谷第一小学校六年生のときの学級担任でもありました。

「県下広しといえど、教え子が教頭という校長はめずらしいだろう」と、嬉しそうに話された校長先生の言葉に、どれほど勇気づけられたかわかりません。

校長先生は、一人一人の子どもを大切にした、明るく楽しい学校づくりに取り組んでおられました。また、実践の積み重ねの大切さを指導いただき、大変勉強になりました。

退職されてもその姿勢は少しも変わることなく、郷土史の研究などに骨身を惜しまず取り組んでいました。米寿を過ぎても、パソコンの操作の習得に励むなど勉強家でした。

奥様との仲むつまじき充実した人生を送られました。本当にお疲れ様でした。

小野恒夫先生を悼む

飯島　裕

小野恒夫先生との出会いは今から五十数年前の事です。

私の初任地三春町立中妻中学校に勤務している時に、郡山市で理科の研究大会があり、先生が自作した器具を用い「静電気の演示実験」を行いました。こすり棒にひらひらと吸い上げられる紙片の様子、ストロー同士が斥け合う様子、がステージから遠く離れた席からでもはっきりと観察できました。生徒に興味関心を持たせ、生徒を引き付ける授業に取り組んでいる素晴らしい先生が石川にいるんだ、と強く印象に残り、自分もあの先生のようになりたいと憧れました。

数十年後石川中学校で、憧れの先生（教頭先生）と一緒に勤務出来ました。

新任教頭の蓬田中学校では校長先生としてお仕えし、教頭としてのあり方等をご指導いただきました。安らかにお眠りください。

内田宗壽先生を偲んで

真田秀男

内田先生は平成五年に開館した吉田富三記念館の初代館長として、また吉田富三顕彰会長として永年にわたり吉田博士の功績を広く伝えるために尽力されました。

「吉田富三子ども科学賞」の制定や「詩を書こうコンクール」の創設も、教育者ならではの子ども育成の視点に立つものでした。

吉田博士顕彰のためにひたむきに努力された先生のお姿は敬服の念に堪えません。

二年前に私と編集した『蜘蛛の子よ』を発行後、「また本を出そう」と笑顔で語られたことが昨日のことのように思い出されます。

ご冥福をお祈りいたします。

新入会員あいさつ

渡辺惣吾

新しいスタート

三月に石川小学校を最後に定年退職しました。三・一一以降、本県の教員研修等の充実、またまとめの月日は、新型コロナ対応に振り回された感がありますが、「教師が変わることによって子どもが変わる」との信念のもと、先輩の先生方、同僚、子ども達、保護者の皆様に恵まれ、三十八年間の教員生活、たいへん充実した毎日だったこと、あらためて感謝申し上げます。

四月からは、浅川町教育委員会にお世話になっております。町教育委員会勤務は初めての経験ですが、学校との密接な関係の中で、緊張感とともに、とてもやりがいを感じる毎日です。第二の人生のスタートにあたり、これまで十分にできなかった山登りや旅行など、また、教員生活のまとめとして取り組んできた、教員の成長の在り方の研究な

どを、もう少し極めていきたいなと思っています。

吉田相康

よりよいワーク・ライフ・ソーシャルに向けて

この度、伝統ある退職校長会石川支部に入会させていただきました吉田と申します。三月末に玉川村立須釜小学校を定年退職し、その後、学校や先生方を応援したいと考え、四月より玉川村教育員会に勤務させていただいております。現職中は、地域のおらが学校としての信託に応えるべく、日々精進を重ねてきたつもりですが、幾多の困難を克服して校長としての重責を果たしてこられた諸先輩方の偉大な功績に頭が下がる思いです。そのような諸先輩方の長年のご活躍に敬意を表すと同時に、私としましても健康に留意し、皆様とのご縁を大切にしながら、必要とされることに責任をもって地域社会に貢献できるよう微力ながら精一杯努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。

富岡　信

令和四年三月末に、石川町立石川中学校を最後に定年退職いたしました。

統合後石川中の第一回卒業生である私が、母校で退職できたこと、また、学法石川高校の同窓生である渡辺惣吾校長、吉田相康校長と共に石川地区で教育に当たれたことを幸せに感じております。すべては恩師の先生方と諸先輩の皆様の御指導のおかげであると、心より感謝しております。

四月から、再任用で平田村立小平小学校に勤務しております。初めての小学校ですが、九十七名の素直で元気な児童たちをとても愛おしく感じます。すべては子どもたちの笑顔と未来のために、命を大切にする教育を土台に自己肯定感を育むよう努力していきます。

退職校長会石川支部に迎え入れていただき、ありがとうございます。今後も御指導・御鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

県大会参加報告

「半途にして怠れば前功を失い、未熟に復る」

矢吹伸一

令和五年六月十四日、県内十六支部から二百三十名の退職校長会会員が集い、第五十七回県大会郡山大会が郡山ビューホテルアネックスを会場に開催されました。

長く続いたコロナ禍の影響大きく、県大会開催は実に四年ぶりであり、石川地区への参加要請人員は八名。本来であれば参加希望を募り選ぶべきところ、参加者名報告の時期もあり、四月総会の出席者より選出、顧問・支部長はじめ八名の方々に参加いただきました。支部会員の皆様には紙面報告にてご了承願います。

午前の部は、式典に続き「近代日本の礎～安積艮斎」と題して、地元郡山安積国造神社宮司の安藤智重様よりご講演いただきました。表題の言葉は安積艮斎の名言として残されているものであり、「中途半端は何もしていないと同じ」という意味の忠言であります。

安積艮斎は江戸後期に郡山の安積国造神社に生まれた思想家。江戸に私塾を開き、幕府直轄の昌平坂学問所の教授も務め、岩崎弥太郎・吉田松陰・高杉晋作など時代を動かした多くの人物の思想形成に大きな影響を与えました。十数年前のＮＨＫ大河ドラマ「龍馬伝」では岩崎弥太郎役が江戸に行って天下第一の安積艮斎先生に弟子入りするぜよ」というセリフを述べていることや、黒船来航の五年前に著した国防論「洋外記略」を読むと、幕末の大変動期に朱子学と陽明学という相反する学派も奉じ、時代への適応性を重視しながら、当時の世界をしっかり見通していた儒学者であったことを雄弁に物語るご講演に感銘を受けました。

午後の部は三支部からの体験発表でした。福島の宍戸仙介氏のＮＰＯ法人理事長としての東南アジア・山岳少数民族の子どもたちのための学校建築等支援や交流活動報告。南会津の小林宗一氏からは、南会津での戊辰戦争の歴史と地域文化財保護委員としての日本遺産・御蔵入三十三観音保護の活動内容や札所維持の願いを聞き、相馬の吉田雄二氏からは、知的障害者授産施設スマイルセンター代表職員

として、通所している二十九名の利用者との就労継続支援や生活・作業支援等の交流などに勤しむ活動が興味深く報告されました。どなたの体験発表も校長退職後のライフワークとして、「生きがい」というものを感じさせていただける内容でした。

郡山大会に参加し、正に表題の安積艮斎の言葉が心に深く刻まれる一日となりました。

次年度県大会は令和六年六月十二日「安達大会」となり、体験発表が石川支部に割り当てられております。

《すこやかライフ》
日々を楽しみながら

鈴木文雄

「これからどうするんですか？」「悠々自適な生活ですね。」等多くの方から声をかけて頂き、三月三十一日に教育長職を任期満了で退任させて頂いた。これからは、時間に制限されず思うがままに生活していこうと四月一日の朝を迎えた。お茶を飲みながら新聞に目を通していたが、何か落ち着かない。のんびりと朝の時間を過ごしている自分が不思議であった。二十二歳で会社勤めを始めてから教員・教育行政勤務と四十七年間、常に責任のある生活であった。今が責任の無い生活と言うのではないが、大きな重荷を下した安堵感と虚脱感を感じた朝の一時であった。と同時に無事に職責を全うできたのは、関係者や友人、地域の方々そして家族等多くの方々の支えがあったことに感謝できた朝でもあった。

退職して三ケ月たった今、私の生活は、六時に起床。お茶を飲みながら新聞を読む。朝食後、八時より連続テレビ小説を見る。その後、二時間程度の草刈り、午後は、買い物等自分の時間を作る。そして、夕方涼しくなった頃には、妻と共に少しばかりの畑作業。一日の終わりは楽しみな晩酌。平凡な一日であるかも知れないが、私にとってはとても新鮮な毎日である。また、単調な毎日にならないよう多くの経験・体験をするように努めている。月三～四回は趣味のゴルフで汗を流す。日帰りでの県内外の名所・旧跡巡りを月一～二回。先日は、家族への感謝を込めて、広島、岡山方面への旅行もしてきた。さらには、地域での会合やボランティア・奉仕活動。退屈するどころか一日一日が充実している。

五月下旬に、高校のクラス会「古希を祝う会」を一泊で行った。数十年ぶりに会う同級生もおり、夜も更けるのを忘れ語り合った。それぞれ良いおじいちゃん、おばあちゃんになっていたが、高校時代に戻った気持ちになり明日への活力となった。

今まで経験していない生活は日々楽しい。これからも、農作業と共に変化を求め、あせらずゆっくりと一日一日を楽しんでいきたい。

ー情報室ー

おめでとうございます

令和四年度叙勲受章者
高齢者叙勲
萩川傳次様

ー事務局だよりー

●第五七回県大会郡山大会
六月十四日郡山ビューホテル
●第一回ボランティア活動
六月十八日実施　特別老人ホーム「ふるどの荘」
●現職校長会との合同研修会
八月十日予定
●松風石川会懇親旅行
九月二十九日予定相馬方面

ー編集後記ー

石川支部報第一〇九号を発行できましたことをうれしく思います。お忙しい中にもかかわらず原稿を執筆頂きました方々に感謝申し上げます。

本年度は、退職校長会の諸活動がコロナ禍以前のように、制限なく展開できますこと喜ばしいことです。

ただ、コロナ感染症が五類に移行しましたが、なくなったわけではないのでまだ適切な感染対策は必要かと思われます。

これから予定されています現職校長会との合同研修会や会員の研修旅行とにぜひ参加いただき、充実した交流ができることを祈念したいと思います。

地球規模の異常気象のせいでしょうか。九州北部の福岡、佐賀両県では大雨に襲われ河川氾濫による道路寸断や土砂崩れにより死者がでる大きな被害を受けています。また秋田市内でも大雨の被害が出ています。

各地で気温が三十六度を越える状況です。心配されるのは熱中症です。熱中症対策には、「日中の外の作業は厳禁、やるならば早朝、夕方に。室内でも熱中症にかかるリスクあり。のどが渇いてからの水分補給では遅い。こまめに水やお茶を飲む。十分な睡眠とバランスの良い食事をとる。」と言われています。健康に留意し、この夏を過ごしていきたいものと思います。

担当　内田賢壽